

駒大は13、65分と最近ゴールを決めていなかった鈴木(左から3人目)に手痛い2ゴールを決められ万事休す(撮影・野澤俊介)

3冠へ越えることができなかったハードル

JR東日本カップ 2004 第78回関東大学サッカーリーグ戦(後期) 1部リーグ 第13節

駒澤大学 1-2 筑波大学

足りなかったもの

前日の試合で流経大が国士大に引き分けたため、辛うじて優勝の望みが残っていた駒大。しかし、負けたら優勝の可能性が消滅するという追い詰められた状況には変わりはない。そこで駒大は巻・原・赤嶺のFW3枚の起用と、攻撃的な布陣で挑んだ。

前節と同様に前半から飛ばし、良い立ち上がりを見せる。しかし前半13分、早くも筑波大が先制。だが選手は焦ることなく21分、すぐさま1点を返す。ファーヘと伸びるCKを巻が頭で落とし、桑原へ。そのボールを受けた鈴木亮が右足を振りぬぎ、相手ゴールに突き刺さる。1-1と試合は振り出しに戻り、更に激しい攻撃を仕掛ける駒大。しかしフィニッシュの精度に欠け追加点を上げることが出来ない。

そして迎えた後半。65分、ゴールキックに平山がヘディングで反らし、またしても鈴木にルーブシュートを決められてしまう。「自分たちがやろうとした事を相手にやられてしまった」(中嶋)。まさに駒大がやろうとしていたロングボールからシンプルに、というサッカーを相手にしてやられてしまった。その後も鈴木にドリブルで抜け出され決定的チャンスを与えてしまう。が、ここは相手のミスにも救われなんとかピンチを逃れる。駒大は大澤をボランチに投入。中後をトップ下に上げ、更に攻撃に厚みを増し筑波ゴールに迫る。しかし攻撃的布陣も得点には結びつかず無情にも試合終了。

この瞬間、駒大は優勝と共に三連覇、三冠という目標をも逃した。足りなかったもの。それは決定力。「DF陣が耐えてくれた分きっちり取らないと勝てない」(中嶋)。「チャンスはたくさんあったが、そこを決めるか決めないかで差が出てしまったと思う」(小林亮) 決定機は何度もあった。攻撃的布陣で臨んだにも虚しく、決定的場面で確実に決められなかった事がこの敗戦から浮かび上がった課題であろう。「最後インカレにつながるように勝って終わりたい」(中後)。リーグ戦残り1試合。この敗戦から学んだ事を見せられるか。良い幕切れを迎えたい。(伊藤優香)

伊藤優香